シカゴ大学くずし字夏期講座 初級
6.17-21, 2019

１）目的

・変体仮名に慣れ、江戸時代の文書をその歴史的文脈で分析する能力を培う

・古文書を読む　…　当時生きた人びとの生活と文化・慣習・知識などに直に接する機会

・まずは文字面をくずし字典などを用いて追う「判読」、つぎに国語辞典や漢和辞典、日本史事典 などを引いて内容まで理解し「解読」へと進む

・くずし字を判読のアプローチの仕方（くずし字の特徴を知る）、古文書特有の表現・言い回し（変 体仮名・異体字・合字・候文など）を学び古文書に慣れる

２）進め方

・ベースとなる「テキスト」を配布し、それを中心に少しずつ読み続けていく

・授業で終わらなかったところは宿題で、次の日はそこから開始する

くずし字辞典

林英夫監修『近世古文書解読字典 増訂』（柏書房、1972 年）387 頁、2726 円 史料編／用例編／文字・熟語編（漢字のくずし＋熟語、偏旁等のくずし、かなのくずし／ 参考資料編（難読用語、異字・略字）／音訓索引・部首索引

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1998 年）1368 頁、6264 円 漢字編／かな編／〔付録〕偏旁冠脚のくずし字方／ 音訓索引・部首索引

大石学監修『古文書解読事典 改訂新版』（東京堂出版、2000 年）445 頁、3024 円 古文書を知ろう／古文書を読もう（文字を検索する〔部首・応用字引、頻出用語集、変体かな、合字一覧、主要異体字一覧、困っときは…理屈抜きで覚えよう、くずし字が似ている文字一覧〕、さまざまなアプローチ）　／文書館へ行こう／付録／音訓索引

『電子くずし字字典データベース』『木簡画像データベース・木簡字典』連携検索
東京大学史料編纂所と奈良文化財研究所が文字を読み解くツールとしてそれぞれ開発した、２つのデータベースによる連携検索サービス
〈http://clioz39.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/ZClient/W34/z_srch.php〉

１）古文書とは

・「甲から乙という特定の者に対して、甲の意志を表明するために作成された意思表示の手段」

（佐藤進一『古文書学入門』法政大学出版会、1971 年）

→ 特定者を対象として作成されたものではない編纂物や日記などは「古記録」

⇒「古文書」と「古記録」をあわせて文献史料

＊通常、「古文書を読む」という場合、厳密な定義にもとづくことは少なく、文献史料全体を指して呼ぶことが多い。

くずし字字典の使い方

＊一文字の範囲を確認する

①何の字であるか、だいたい見当がつくときは

→ 音訓索引 ⇒ その字を引いて確認する。そのさい用例や熟語もチェックするとよい。

②部首がなんとなく予想がつくときは

→ 部首索引 ⇒ 予想した部首を「部首のくずし一覧」にて確認し、該当する部首の掲載頁に てその字を確認していく。

扁（へん）、旁（つくり）、冠（かんむり）、脚（あし）、垂（たれ）、 構（かまえ）、繞（にょう）

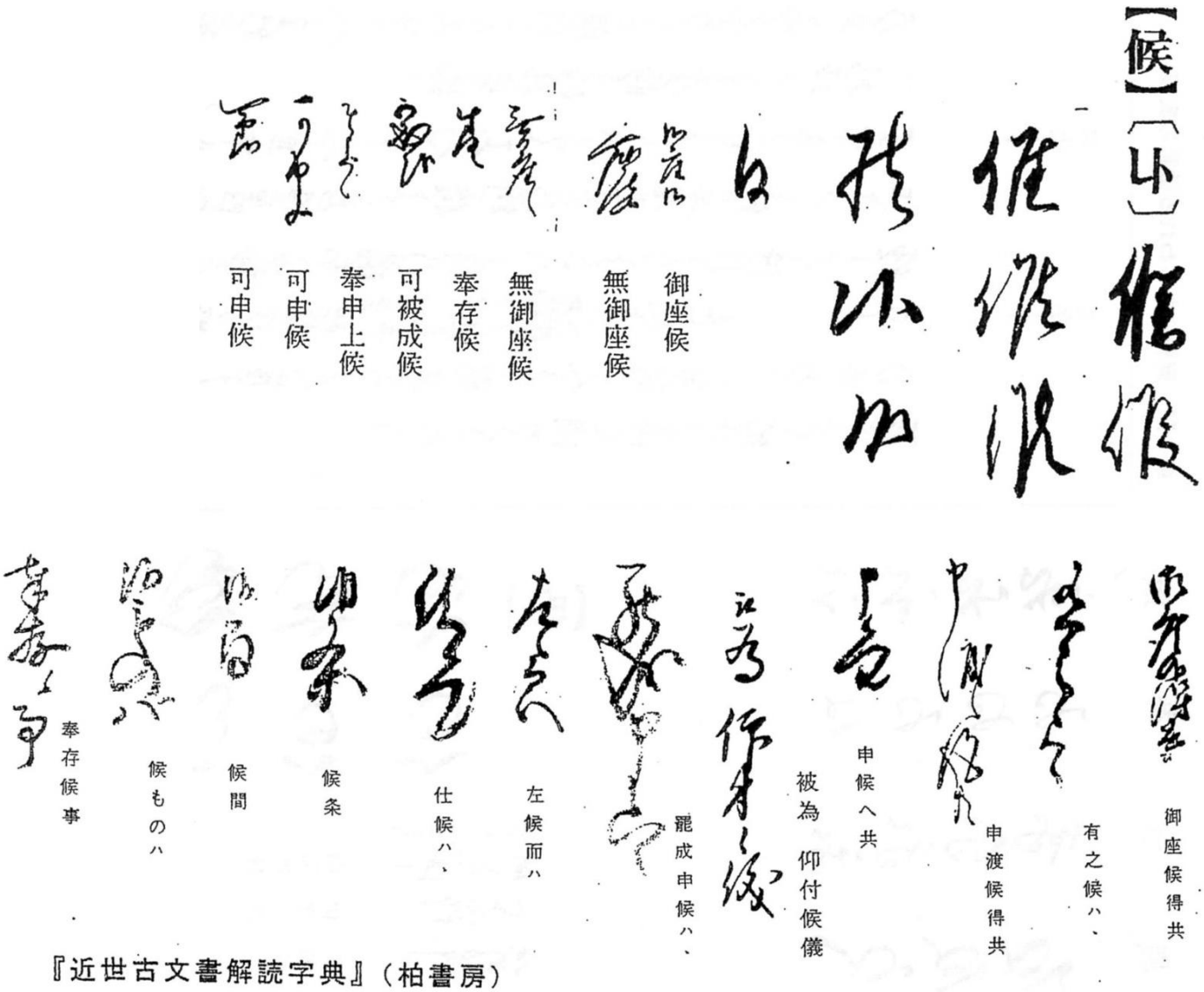
③一字は判読できるが、上（下）の字が読めないときは

→ 判読できた字を引いて、〔用例〕の中から該当する熟語を探す。基本熟語は必ずある。

④まったく見当がつかないときは

→ まずは「部首のくずし一覧」を一字一字見ながら探し、一つの部首の範囲に絞れたら、該当する部首の掲載頁にてその字を確認していく。

どうにもならないときは字典の最初から一頁ずつ地道に探すことも…



『近世古文書解読字典』（柏書房）

【参照資料１】 大友一雄監修『古文書に親しむ』（山川出版社、2002 年）

書札の端書高下

一筆奉啓上候 極上
一筆啓上仕候 上
一筆致啓達候 中ノ下
一筆令啓候 下ノ中
一書申達候 下

様・殿・御・候・申の文字の高下

様 極上
殿 極上
御 極上
候 極上
申 極上

一筆奉啓上候 極上
一筆啓上仕候 上
一筆致啓上候 同輩
一筆致啓達候 中ノ下
一筆令啓候 下ノ中
一書申候 家来
一筆啓上仕候 上
一筆致啓上候 下ノ上
一筆令啓達候 下ノ上
一書申入候 下
一筆申候 家来

様 極上 様 極上 様 上 （略）
殿 上 極 殿 極上 殿 上 （略）
御 極上 御 極上 御 上 （略）
候 極上 候 極上 候 上 （略） 〇申 極上 申 上

▲『書札調法記』 近世的な書札令が確立する中で調法記などの出版が見られた。